

第1回ふくまちエリア価値創造フォーラム

- 【日時】 2023年（令和5年）8月24日（木）14：00～16：00
【場所】 まなびの館ローズコム 4階大会議室
【テーマ】 民間主導のエリアマネジメント
～カミハチキテルの取組を中心に～
【参加者】 約90人（オンライン参加を含む）
【内容】 講師レクチャー・質疑応答



講師レクチャー

1 エリアマネジメントとは

民間主体で組織や体制をつくりながら、戦略づくりとアクションを進めること。

2 カミハチキテルの活動

カミハチ（紙屋町・八丁堀）から広島都心、或いは広島全体の未来をつくる。

- 3つのエンジンで活動
 - （1）勉強会からスタート。学ぶこと以外に、自分の言葉でまちについて話したり、自分たちの問題にしていくことが大事。
 - （2）ビジョンの作成。話し合いのネタとなり、いろいろな人がまちについて関心を持ったり、取組に繋がるのが大事。
 - （3）社会実験の実施。アクションをしながら考えていくことが大事。
- 2020年3月にチームビルディングと相生通りの将来像を仮設的に見える化し検証することを目的に一度目の社会実験を実施した。バス停の切り込みがあった場所をウッドデッキに変え、コンテナの店舗とベンチを設置するなどすることで、空間の質とアクティビティが劇的に変化した。
- 2021年1月にアフターコロナの都市空間をテーマに二度目の社会実験を実施した。コロナ禍で商業施設が苦しんでいる状況が

あり、屋外でも飲食ができる空間を作ったことで、サラリーマンが仕事をしたり、子どもが集まるような空間となった。

- 2022年の冬にバス停の改良やスポンサードアートの導入可能性などの検証をする三度目の社会実験を実施した。
- アクションと組織づくりを併走させることで、人間関係を広げ、信頼関係を作っていた。



講師/山中 佑太さん
カミハチキテル事務局
一般社団法人
地域価値共創センター
理事/統括マネージャー

3 多様なプレイヤーと多様な資金調達方法

- 最初の社会実験の資金は、94.4%が民間資金だった。そのうち約半分が寄附金・協賛金、現物出資、広告収入、クラウドファンディングなどで、幅広く資金調達をした。幅広い協力を得る上で、青年会議所のネットワークが非常に有効だった。
- 広島県産材を使うにあたってメーカーに相談したところ、無垢材を使うことになり、見栄え良く、檜の香りが漂い、五感に訴える社会実験となった。

（次頁に続く）

- 広告収入ではアーバンスポーツイベントのPRでサインを付けさせてもらい、デザインにも気を付けたのでグッドデザイン賞など4つの賞を受賞した。
- クラウドファンディングでは、集まった金額の大小ではなく、広島に愛着を持った県内外にいる162名もの方が出資してくれたことに意義があった。
- 1日2回、昼と夜で出店者を入れ替えることで、1か月で多くの出店者がまちのプレイヤーとして見える化された。また、エリア内だけでなく、中山間地や島しょ部からも出店していただき、広島都心で周辺エリアの魅力を発信する場として使ってもらえたことに意義があった。
- 世界的アーティストとコラボレーションして、スポンサーになってくれる企業のPRとアートを両立させるものを壁面に描いてもらい、まちづくりに収益を還元させた。

4 ミライ志向型のビジョン

- 2021年10月に「カミハチミライデザイン」を発表し、相生通りを段階的に整備し、トランジットモールが公園のように居心地の良い空間となったトランジットパーク化をめざしている。
- いつ社会が劇的に変化するかわからない。ビジョンは作って終わりではなく、時代に合わせて常に更新し続けるもの。
- 被爆100年の節目である2045年の新たな広島の都市像として、平和な世界を実現するための社会課題を解決できる企業や人が集まることで平和に寄与するまち「世界課題解決都市群」を提唱。
- 実際のプロジェクトとビジョンをリンク付けしている。
- 民間の建て替えなどの事業は、規制等で縛るのではなく共感できる将来像を作ることで誘導する。

5 広島都心会議

- 広島都心全体でまちづくりを進めるため、プロジェクトと人の両方をつなぐ横串の役割を担っている。
- エリアマネジメント団体だけでは、それぞれがちぐはぐになって機能しなくなるので、取りまとめをする組織が必要。

- 瀬戸内エリアでの広島の役割を描いたビジョンを作成し、広島都心部のめざす姿を民間目線で明確にした。
- 行政にワンストップの相談窓口をつくってと言っても難しい。広島都心会議が官民双方からのまちづくりに関する相談の受け皿となり、人と人をつないでいく。
- 都心会議の会員企業とエリアマネジメント団体のマッチングイベントも行っている。

質疑応答

- カミハチエリアと他のエリアで進んでいるプロジェクトとの調整について教えてほしい。
→広島都心会議がその役割を担っている。強制力はないが、対話のテーブルが開かれていることに価値がある。行政に対しても、個社の思いを聞き、民間の総体として意見を言える。
- プレイヤーを発掘する観点から芸術文化に関して検討していることがあるか。
→三度目の社会実験で行ったように、現代美術館とのコラボレーションを継続したい。カミハチキテルのコンテンツワーキングの中で文化的な土壌を作る話が出てくると思う。
- 民間主導のまちづくりの取組に対して行政の関わり方として重要なものは。
→何かイベントをやるときも、立上げの段階から人手を出して手伝うなど関わる機会を多く持って、伴走する姿勢を見せることがすごく大事。また、お金を出さなくても、民間に頑張ってもらうために、さじ加減の見極めが大事。

